



即時性の高い
相互評価による
質の高い
「振り返り」



ルーブリック
利用による
客観的評価の
「見える化」



物理的障害を
乗り越える
ICTツールの
可能性



ICT活用
によって進む
「振り返り」の
日常化



能代高校における 「探究活動」の特徴

学びのフィールドを積極的に「外」へ広がります。その際に障害となる距離や時間をICTで補います。外部の助言者・協力者、地域・社会によって「磨かれ」成長できる体制を意識しています。また、ICTを活用した相互評価や即時評価によって、「学びの集団」づくりを進めていきます。良質な「振り返り」の即時の全体化で、よりよい効果が期待されます。

「探究活動」の今後

日々の活動記録や学びの成果をデジタル化して蓄積することによって、「振り返り」の頻度を高めます。生徒は、いつでもどこでも、自分の高校生活を振り返ることが出来るようになります。良質な「振り返り」を実現するためにも、良質な「対話」を日常的に意識します。「語る」「語り合う」「対話」の充実により生徒自身が「主体的学習者」へと成長することをめざします。

秋田県立能代高等学校

New Will Project

地域課題解決型探究活動 キャリアデザイン型探究活動

「探究活動」を振り返って 優秀発表会をふまえた生徒の声

どの班も様々な視点から秋田や能代をみつめていて参考になった。今までは、地域の高齢化や少子高齢化といった視点でしか地元について考えたことがなかったので、新たな視点で能代を見つめ直せてとてもいい機会だった。これからいろいろなことに関心を持って生活して、2年生での個人探究に活かしていきたいと思った。

私たちの班でも、フィールドワークの他にも追加調査に行って、たくさんの人たちから意見を頂くことができたので、良かった。特に、電話をしたり、実際に自分で足を運んでお話を聞いたりする機会が多かったので、コミュニケーション能力や度胸が付き、少し成長できました。2年生での個人探究では、この積極性を生かして、深く掘り下げて考えていけるように頑張ります。

今年度は個人探究だったので、全てを1人で進める必要があり、展望を持つことや事前の準備、計画性の大切さが分かりました。1年生からの探究活動で学んだことも多いので、大学での研究などにも今回の経験を活かしたいです。

代表者の人たちはたくさんの時間をかけて調査をし、考え、まとめられた素晴らしい探究でした。自分の探究はそこまで時間をかけずにやってしまいました。部活や勉強などで時間が限られているなか、集中して真面目に取り組んだからこそ、あのような素晴らしい発表ができるのだと思いました。これから大学進学に向けて勉強をしていかなければならないなか、限られた時間に集中して真面目に取り組んで良い結果に結びつけられればと思います。

勉強でも部活でも、工夫し、考えることの必要性を改めて感じた。目標設定だけでなく、その目標の実現のための自分なりの考えを持つことや行動に移すことが進路実現に向けての第一ステップだと思った。

どの班も、調査・研究の基本（現状把握、課題発見、テーマ（仮設）設定、情報収集、検証、考察）に沿った取り組みができていて、高校生として高いレベルでの取り組みを実施されていると感じました。限られた時間の中で、資料・情報の収集や文献調査、インタビュー等の現地調査を行うなど、多くの活動を丁寧に行っている印象です。

自分の生まれ育った地域を見つめ直す良い機会になっていると思います。進学や就職でこの地域を離れても、この地域を忘れないで応援してくれる人になってほしいと思います。

高校生が自分の住んでいる街のことを良く知ることができるとともに、市が若者に伝えたいこと、知ってほしいことを直接伝えられ、若者の興味関心も知ることのできる良い機会となっていて、大変ありがたいと思っています。

活動を通して改めて能代の魅力に気づくことが出来た。これからはその魅力を発信する側として、生活していきたいと思う。

どの人も探究のテーマが自分の夢と直接的に関係していて、説得力があった。だから今後は自分の夢や目標を明確にして、努力したいと思うきっかけになった。

高校生の視点で能代市の課題や問題点を認識し、それらを解決するために仮説等を立て、データ等を情報収集し、政策提言をしており、大変興味した。地元に関する理解度が深まったとともに、学生自身ができる良い機会だったと思う。活動で培った考え方や思考は、今後の学生生活や将来の社会生活を営む上で必要十分なパワーポイントをはじめとするシステム操作技術や、必要な情報を入手し取捨選択することを身につけることができるよい活動であったと思う。

主体的学びが身につく効果的な手法であると思います。課題発見力や探究心、問題解決力、プレゼン能力のいずれにおいても、今後の社会を生き抜く重要な力が育まれると実感いたしました。与えられた学びから意志ある学びへの転換が意識された実践ではないでしょうか。

「探究活動」についての 外部アドバイザーの声

「育成をめざす生徒像」

高い志を掲げ、自らの目標達成やよりよい社会の実現に向けて、主体性をもって果敢に未来を切り拓く生徒

- 〈本校生であることに誇りを持ち、規律正しく活気ある学校生活を実践する生徒〉
- 〈「確かな学力」や「実戦的な力」の獲得をめざし、主体的に学びに向かう生徒〉
- 〈豊かな人間関係を構築し、他者を尊重しながらともに学び行動できる生徒〉
- 〈自己の目標実現のため、心と体を鍛えつつ、不斷の努力を継続できる生徒〉
- 〈探究活動を中心に市民性や社会貢献の意識を高めつつ、次代を担う志を持った生徒〉



探究活動 Planning

- 1 年次：地域課題解決型（グループ探究）
- 2 年次：キャリアデザイン型（個人探究）
- 3 年次：自己進路実現型（志望理由書等）

地域の中心校として、「地域への思い・愛情」「これからの社会で必要とされる資質・能力」を育む取り組みであるべきと考えました。1 年次の経験をふまえ、2 年次では進路に関わる個人探究を主体的に進め、3 年次での自己の進路実現に繋いでいきます。1 年次は「ローカル」な視点からの探究ですが、「リージョナル」「グローバル」な視点への発展を意識して探究を深化させていきます。

強く「地域」を意識した 5 領域設定

秋田県や能代市の抱える今日的な課題と未来に向けての戦略に沿ったものとししました。

Green

エネルギー
環境問題
里山保全
ジオパーク

Agri

農林水産業
地域特産品
6 次産業化
後継者育成

Tourism

観光
文化振興
シティーセールス
地域ブランド化

Life

まちづくり
移住定住
防災減災
C C R C

Health

医療・福祉
健康寿命
高齢社会
スポーツ振興

テーマ設定

夏休み期間も利用して、探究テーマの設定やフィールドワークの計画を相談します。

ループリック説明会

探究活動の目的の再確認と評価法であるループリックの説明を行います。評価の観点やポイントを理解することで活動の質を高めます。

6 月

探究活動ガイダンス
領域説明ガイダンス

探究活動の概要の説明を行います。なぜ「探究」なのか、なぜ「地域課題」なのか。その後、各領域の担当教員から簡単なレクチャーがあります。ここから、生徒の「探究」がスタートします。

7 月

探究活動出前講座

5 つの領域について、生徒は希望領域毎に分かれ、大学教員や市役所職員による講話を聞きます。地域の抱える課題について、それぞれ学術的・行政的観点からの講話をしていただきます。

「多様性」を意識したグループ編成

希望領域と関心のあるキーワードに関するアンケートを実施。それをもとに班編成を行います。班編成の際には同一属性の生徒が分かれるよう配慮しています。

8 月

フィールドワーク
全員・終日

全員が 1 日フィールドワークを行います。各班、必ず複数箇所への訪問を義務づけています。Classi 上で成果の共有や安否確認を行います。訪問のアポ取りも生徒自身が行います。

9 月

探究活動本格化
プレゼンデータ作成

フィールドワークが終わると、いよいよ探究活動が本格化します。仮説を立てて、課題解決への話し合いが深まっています。また、「情報」の授業でもプレゼンファイルの作成や探究に関わる指導について連携を進めています。

10 月

中間発表会

領域毎に別れて、これまでの探究の経過を発表します。大学教員や市役所職員の方にアドバイザーとして参加していただき、的確な指導助言をいただきます。同時に、生徒同士でもループリックを用いた相互評価を行い、Classi の「アンケート機能」を活用して、即時に「振り返り」を行います。

調査・探究の深化

外部アドバイザーの指導助言、生徒からの質問や相互評価の結果や意見を踏まえ、これまでの探究を振り返り、深化をはかります。ここでどれくらい「主体的」に活動できるかが最終発表の質を左右します。独自で追加のフィールドワークやアンケートなどを実施したグループもありました。できれば全てのグループが「外」に出て欲しいと考えています。

12 月

成果発表会 相互評価・即時評価

半年間進めてきた探究活動の最終発表会です。多くの外部アドバイザーのみなさんにも聴いていただきます。どの班も中間発表会からの成長の跡が見られます。発表に対する鋭い質問も飛び交います。成果発表会でも Classi を用いた相互評価・即時評価を行いました。生徒たちは自分のスマートフォンでアンケートに回答します。全ての発表が終わってからは、各自がこれまでの探究の成果を「振り返り」ます。他者からの評価と自己評価、そして外部アドバイザーによる評価を比較することで、自己理解が深まります。

「学び方の学び」

「自分がやりたいテーマではなかった」そんな声が聞かれることがあります。グループでの活動ですので、そういう思いも理解できます。でも、2 年次は「個人探究」です。思い切り自分の興味関心を探究してください。情報の集め方、探究の進め方、提言を想像する力、他者との協働、外部との関わり方、1 年生では、「学び方を学ぶ」のです。

1 月

1・2 年生合同
優秀発表会

1 年生からは各領域から選出された 5 つのグループが、2 年生からは各クラス代表の 6 名が、1・2 年生全員の前で発表を行います。外部アドバイザーの方だけでなく、保護者や地域の方々にも来校いただきました。

最終的な自己評価

優秀者の発表をふまえて、最終的な「振り返り」を行います。発表会の度に、「他者評価」「自己評価」を繰り返し行います。そこに「外部アドバイザーからの厳しい評価」も加わることで、自分の成長や課題を実感しやすくなっています。

2 年生 「個人探究」



1 年次の経験をふまえ、2 年次では、自分の進路目標に関連したテーマを設定した「個人探究」を行います。本校では、2 年生全員がインターンシップを実施しています。本校におけるインターンシップは、単に就業体験にとどまらず、個人探究を深化させるためのフィールドワークのような意味も持っています。訪問先には、事前にその分野・業種に関わる質問状を事前送付します。これは、目的・課題意識をもって活動してもらいたいためです。また、2 年次での探究では、「ローカル」な視点はもちろん持ちつつも、そこから「リージョナル」「グローバル」な視点への発展を意識します。社会に対する多角的な視点を養成しつつ、自己の進路実現に向けてのモチベーションを高める活動となります。発表はポスターセッション形式になりますが、優秀者は 1 月にプレゼン形式での全体発表があります。

- 3 月 個人探究
インターンシップ説明会
- 4 月 探究テーマ決定
- 6 月 インターンシップ先決定
- 7 月 事前質問送付
インターンシップ
(全員・2 日間)
- 9 月 中間発表会
- 11 月 成果発表会
- 1 月 優秀発表会 (代表 6 名)

探究活動実施に向けて

- 「持続可能」な計画であること
- 可能な限り「総合的な学習の時間」内での完結
- 「外部機関」との協力関係の構築
- 「評価」や「振り返り」の効果的実施

校内、それも教員の指導だけで
完結させない体制の構築！

生徒同士の学び合い！
外部の方の温かい指導！

I C T (Classi) の活用

Classi とは

新時代の教育や学校を取り巻く様々な環境の変化に対応した、教育現場を支援する I C T プラットフォームです。本校では「探究活動」での活用を中心として、「学習記録」による日々の生活の自己管理や、掲示板・連絡手段としての「校内グループ」、各種「アンケート」にも利用しています。授業での活用例も増えてきました。

「探究活動」での Classi 活用①
【校内グループ】

- 「校内グループ」は、日々の活動の「場」として活用します。「総合的な学習の時間」以外でも自由度の高いコミュニケーションが可能となり、また、同時に活動履歴の可視化、データ化も行われます。
- 外部との連絡ツールとしても有効な手段となります。外部アドバイザーにもグループに所属していただき、生徒の活動履歴等を確認していただきながら、定期的に指導助言をお願いしています。

「探究活動」での Classi 活用②
【アンケート・ポートフォリオ】

- ループリックを用いた、即時の相互評価によって、すぐに「振り返り」が行えます。また、それだけではなく、その場で「振り返り」の成果を全体で有することが出来ます。
- 「アンケート」の結果は「ポートフォリオ」として蓄積されます。活動履歴や成長の軌跡が、データとして可視化、蓄積されていきます。